

マダニ刺傷による重症熱性血小板減少症候群（SFTS）に注意を！

文責 内科 大塚伸昭

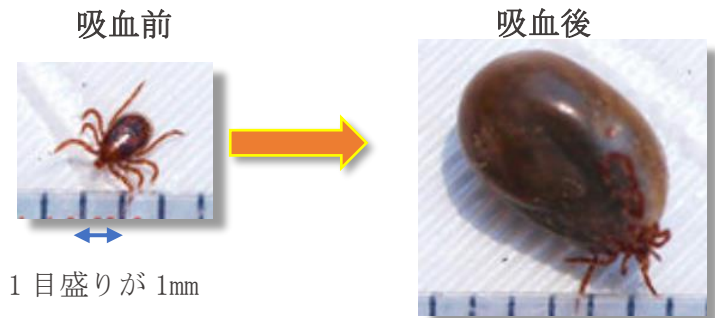
宮崎県はマダニ感染による重症熱性血小板減少症が全国で最も多く平成 25 年から平成 29 年 7 月 末までの約 4 年半で 44 名が感染し、宮崎県内における**死亡率は 18%**となっています。日本全体では約 280 件の報告があり**死亡率は約 20%**となっています（殆どが西日本）。

ウイルスを保有するマダニには①フタトゲチマダニと②タカサゴキララマダニの 2 種類が知られています。

ダニはクモ綱に属する節足動物です。蜘蛛の仲間という事になります。下の写真の様に 8 本足があります。フタトゲチマダニはチマダニ属の仲間です。

下写真はフタトゲチマダニ（吸血前）

吸血するとこんなに大きくなる！



左写真はタカサゴキララマダニ。タカサゴは台湾由来の生物に付けられることが多い。キララはエナメル様の光沢で反射する事から名付けられている。



これはイエダニ。体長 1mm 程度。吸血前は白（汚白）色。



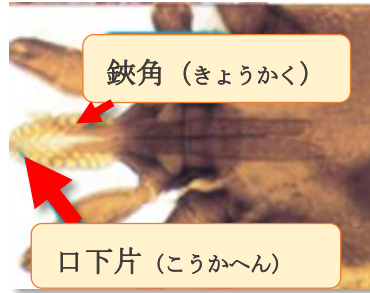
これはコナダニ。体長 0.3mm 程度。アレルギーの原因となる

※吸血されれば、痒み、発疹などあるが、日本ではウイルス感染による健康被害の報告は無い。

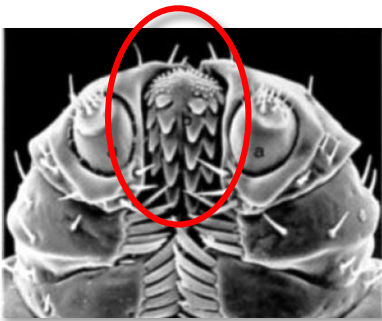
ダニの吸血は蚊と違って口で噛みつきます！



蚊は刺すだけ！



ダニは唾液で皮膚を溶かし、**鋏角 (きょうかく)** と呼ばれるノコギリの歯のような針状の構造物で皮膚を切開し、**口下片 (こうかへん)** と呼ばれる口で噛みつきます。



左写真はダニを腹側から見た電子顕微鏡写真です。怪物みたい！ですが、ノコギリのような鋏角と口下片が良く分かります。

重症熱性血小板減少症 (SFTS) のウイルス感染潜伏期は**6日～14日**です。発熱、倦怠感などある場合には病院を受診して血液検査を受けて下さい。



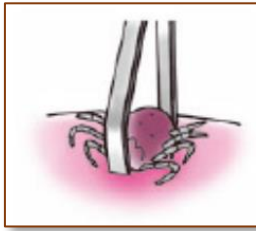
血液検査では**血小板減少**、**肝機能異常**などを認めます。最近も高岡町の山林でマダニ刺傷から重症熱性血小板減少症に罹患した人が宮崎県立宮崎病院に入院。その後のリハビリ目的で当院に入院していました。



ダニ駆除の時には
注意してね！

今年7月に東京で野良猫に噛まれた人が重症熱性血小板減少症で死亡しています。これ以外では感染した犬や猫から人への感染例の報告は今までありません。ペットのダニ駆除の場合にも念のため注意して下さい。また中国では人から人への感染例も報告されています。感染者が疑われる場合、血液、唾液などの分泌物の取り扱いにも注意が必要です。

マダニに咬まれている場合には手で取り除かないで下さい。前頁のように皮膚にしっかり噛みついていますので虫体がちぎれて口の部分が皮膚内に残存し、ウイルス感染の原因となります。



ピンセットで皮膚に近いところから挟んで垂直に引き抜きますが、難しいので皮膚科医などの受診を推奨します。

※ちなみに私自身も取り除いた経験はありません！

宮崎県内の重症熱性血小板減少症の患者、死亡者数を以下に示します。

平成25年3月の届出開始からの報告数

年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年 (注意1)	計
報告数	7	11	9	9	8	44
うち死亡者数(注意2)(再掲)	2	4	2	0	0	8

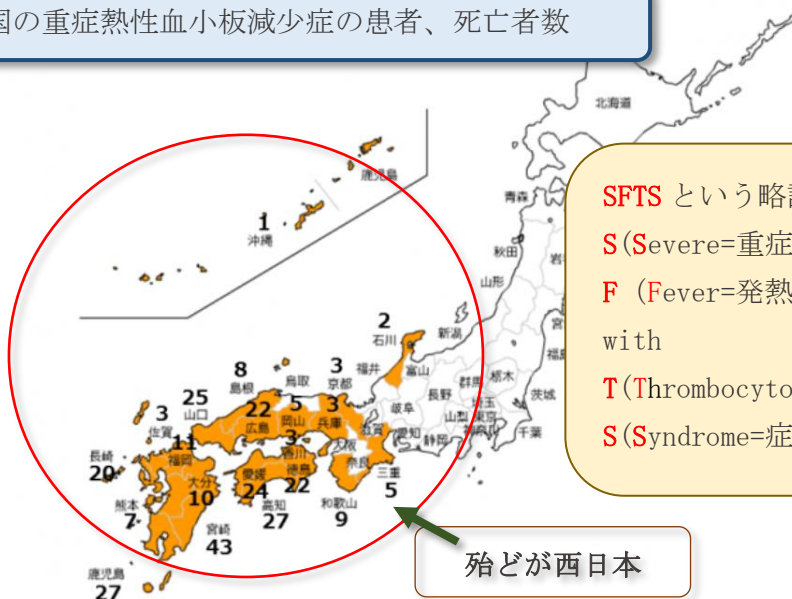
注意1：平成29年第30週（7月24日から7月30日まで）の報告数

注意2：発生届出時点での数

今年は7月末までで8人の患者報告があります。幸い昨年からの死亡報告はありません。

国立感染症研究所によると、平成29年7月26日現在で、全国で280件の報告がされています。

全国の重症熱性血小板減少症の患者、死亡者数



SFTS という略語は以下のようになります。

S (Severe=重症)
 F (Fever=発熱)
 with
 T (Thrombocytopenia=血小板減少)
 S (Syndrome=症候群)

殆どが西日本

図 SFTS症例の届出地域（平成29年7月26日現在 国立感染症研究所ホームページから抜粋）